

<週報No. 2, 811> 2, 920回例会
2017年7月14日(金)

■会長／八幡 一成 ■幹事／北川 和彦

◆司会＝平林明 S A A

◆ゲストビジター＝丸山裕之・諏訪グループガバナー補佐、木下敏彦・岡谷エコーRC幹事

◆出席報告

本日	78.38%	11名欠席
前回訂正	89.74%	5名欠席

◆ラッキーナンバー＝No.23 平林明君

◆ニコニコボックス ●丸山裕之ガバナー補佐＝本日はよろしくお願いします●八幡一成君、北川和彦君、伊藤武利君、加藤明博君、玉本広人君＝丸山ガバナー補佐、木下幹事様、本日は宜しくお願いします●大和眞史君＝お一人様を決め込んでいた長女が年貢を納めることになり、ほっとしました●平林明君＝ラッキーNo.に当たって。

◆会長告知・八幡一成会長＝先週は加盟認証状の話をしましたが、加盟認証状は加盟認証状伝達式でガバナーからクラブに手渡されます。この伝達式はチャーター伝達式とも呼ばれ、伝達式の後に行われる祝賀会をチャーターナイトと言います。伝達式と祝賀会を合わせてチャーターナイトと呼ぶ事が多いようです。

諏訪クラブの場合は、加盟が承認された1957年6月27日から1年ほど経った、1958年4月28日にチャーターナイトが行われています。創立10周年記念誌に書いてあるチャーターナイトの様子を紹介します。場所は諏訪二葉高校の講堂。この日は、当時の天皇誕生日の前日で校長先生のご協力で28日と29日の授業を繰り替えてくださったようです。チャーターナイト前日は大雨で天候が心配されましたが、当日は「晴朗なる天候」と記録されています。

来賓は当時の林県知事、各市町の市町長、商工会議所会頭などで、ガバナーはじめ東北から九州まで全国のRCから家族同伴でロータリアンが集まり、出席者は全部で300名くらいになったようです。

当日は、二葉高校の生徒さん50名に会場案内などのご協力をいただいた会場設営、厳粛で和やかな式典、諏

訪らしい料理、余興、お土産は満点であったと記録されています。また、地藏寺庭園でのお茶のサービス、諏訪湖遊覧と塩嶺への観光なども好評だったようです。

その年の正月早々にチャーターナイトの準備委員会を立ち上げて準備を進め、事前に武蔵野クラブや京都クラブなど他クラブのチャーターナイトに出席し、何をやってらよいか勉強したようです。

準備委員会では大いに議論がされ、善意の争いや善意の熱意の調整に苦慮し、喧嘩別れ寸前まで議論が熱くなったこともあったようです。そしてこの認証状伝達式を頂点としてすべての会員の間に心の垣根はなくなった、と諏訪ロータリークラブの血筋には書かれています。

知恵を出し合い、共に汗を流すクラブを挙げての行事が、会員の一体感と肚を割って話し合える間柄を醸成するのは、今も昔も変わらないと60周年の記念式典を終えて実感しています。

◆幹事報告・北川和彦幹事＝①本日はガバナー補佐事前訪問です。例会後クラブ協議会がありますので出席義務者は出席を②21日の例会はありません③28日はガバナー公式訪問です。例会終了後に記念撮影があります④米山奨学会からクラブ宛に感謝状が届いています⑤ガバナーエレクト(2018-19年度ガバナー予定者)に駒ヶ根RCの伊藤雅基さん、ガバナーノミニ(2019-20年度ガバナー予定者)に松本西南RCの古川静男さんが決まりました⑥先週の理事会報告＝●青少年交換留学生協力金の件は前年度の理事会で決定されていますので今年も協力する●今年度から週報が紙ベースで全員に配布され、HPのアップもスマートレイクに依頼●クラブ細則検討委員会を設置する。これからメンバーを決めていきたい●ロータリー財団補助金1000ドル決定⑦太田信男会員が第22回米山功労者メジャーダーンとして表彰されました。またロータリー財団から第7回マルチブルポールハリスフェローの表彰を受けられました。表彰状を丸山ガバナー補佐から手渡して頂きます。



◆クラブ協議会(ガバナー補佐事前訪問)・丸山裕之諏訪グループガバナー補佐＝私は最初に岡谷RCに入会、その後、岡谷エコーRCに移りました。ロータリー歴は長い

のですが、昨年11月からガバナー補佐研修を受けてきて、初めて聞くような内容が非常に多くて勉強不足を感じています。今年2月にガバナー研修から帰国した関ガバナーがR I 会長のテーマ、メッセージを披露されました。R I 会長が知人から「ロータリーとは何ですか」と聞かれて、どう答えようかと思い悩んだ末の会長の答えの説明が披露されました。

「ロータリーに変化をもたらす」というのがR I 会長のテーマであります。多くのロータリアンの長年にわたる奉仕活動が多くの人々の命を救ったり、将来にわたって



て明るい希望を抱かせたり、奉仕を通じて誰かの人生を良い方向へ変化をもたらす。そういった活動をしているのがロータリーである、と理解すると、職業、国際的な環境保全、地域社会への貢献ということにも通じるものがある。そうした活動

に対してみんなで力を出し合い、資金を出し合う。そういった意味が私の中でだんだん明確になってきています。

諏訪クラブの計画書の中で一番面白いと思ったことは「諏訪クラブの血筋」というページ。非常に素晴らしいページだと感じました。知り合いを広めるというロータリーの原点が脈々と受け継がれてきている。2600地区のあるガバナー補佐は「私がロータリーに入ったのはいろいろな人、いろいろな職業の人と知り合って話が出来るから。そうした中から奉仕の精神が自然と発生してくるのが本来の姿じゃないかな」というんですね。やはり基本には「いろいろな人と知り合って話をする」というのがある。諏訪ロータリーの「血筋」の中にある「お互いにざっくばらんに何でも話し合える仲間になろう」というのがロータリーの根本じゃないかなと思う。

「ロータリーって何ですか」と聞かれたとき、皆さんは何と答えますか。私としては「〇〇に良い変化をもたらす奉仕活動をする団体がロータリーである」と答えようと考えおります。

私が勝手に解釈すれば、国際的に活躍できる青少年の育成に向かって活発に活動できる環境をよりよい方向へ変化をもたらす活動をしているのが諏訪RCだと考えています。諏訪市内の小中学校生が相手のことを深く理解し合い、信頼し合う、そんな情操教育をよりよい方向に変

化をもたらす奉仕活動をしているのが諏訪RCであると思っています。

クラブが生まれるときに「クラブを作ることが目的ではない、大切なのはそのクラブが何を目指すのか」という基本的な理念があって、地球のために何かをしたいというテーマが先輩たちの知恵で生まれてきました。

ロータリーが目指していることと、そのための行動を分かりやすく明確に発信することがロータリーへの理解度を深める、認知度を上げることにつながると考えています。関ガバナーは「変化をもたらす」というテーマに対して時代や社会の状況変化に応じた奉仕活動の必要性を重視されています。変化に対応するために自分自身も変わる必要がある。そういった観点から「アップデートマイクラブ」という地区方針を掲げてロータリーパワーを更にアップしましょうと提唱されています。

地区の行った一般市民へのアンケートでは、大体4割の人がロータリーを知らない、4割の人が名前は聞いたことがあると答え、残りの2割の中でも本当に活動内容を知っているという人は非常に少ない。どのクラブもすばらしい活動をしています、一般になかなか知れ渡っていない。公共イメージの向上が今一番大切ではないかと思っております。そのための第一歩として身近な奥様方や社員の皆様に「なんとすばらしい活動をしているんですね」と理解してもらえるような内容をまとめ上げる、それをベースにしてどのように外部に発信していくか、そうした検討を是非進めて頂きたいと思っております。

地区補助金制度は、奉仕内容を具体的に明確に目的、使途、行動内容を明らかにしていけないと、地区補助金の認可が得られない。活動内容の表現の仕方にも変化をもたらさなくてはいけない。地区補助金制度は奉仕活動に対する考え方、行動の仕方に変化をもたらしているのではないか。それを更に一歩進めて公共イメージ向上ということに対して検討を進めてほしい。考え方にも行動にも変化を起こすことによって、会員個々のアップデートが始まるし、クラブ全体のアップデートも始まる。

◆今後の例会日程

7月28日	金	クラブ協議会（関邦則ガバナー公式訪問）
8月4日	金	クラブ協議会（新年度方針挨拶）
8月11日	金	法定休日